

稲発酵粗飼料栽培におけるイネツトムシ成虫捕獲数による防除適期の予測		
[要約]稲発酵粗飼料栽培圃場において、昆虫誘引捕獲器によるイネツトムシ第1世代成虫の50%捕獲日から10～14日後が、第2世代幼虫の若齢～中齢期にあたり、高い防除効果が期待できる。		
農業総合センター農業研究所	成果 区分	技術情報

1. 背景・ねらい

稲発酵粗飼料栽培におけるイネツトムシの被害軽減には、食害の甚だしい第2世代幼虫に対する適期防除が重要であるが、防除適期の判定にあたっては継続的に圃場を観察し寄生状況を把握する必要がある。そこで、イネツトムシ成虫の発生推移を調査することで、第2世代幼虫の発生時期を簡易に予測する技術を確立する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 平成17～20年の7月に大洗町飼料イネ栽培圃場に昆虫誘引捕獲器(40×40×57cm、F社製)を地上約60cmに設置し、誘引源としてK社製芳香・消臭剤「ピュアローズの香り」(以下、芳香剤とする)を添加してイネツトムシ成虫捕獲数を調査した(写真1)。
- 2) 昆虫誘引捕獲器による成虫捕獲頭数とイネ葉上の産卵数の推移は一致しており、イネツトムシ若齢幼虫の発生予測に有効である(図1)。
- 3) 平成16～20年における第1世代成虫の50%捕獲日(累積捕獲数が総捕獲数の半数に達した日)は、7月11日～26日であり、成虫の発生時期は年次間差が大きい(表1)。
- 4) 第1世代成虫の50%捕獲日から第2世代幼虫の防除適期(圃場内のイネツトムシ幼虫の8～9割が若齢～中齢を占める時期)までの日数は、概ね10～14日である(表1)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) イネツトムシの防除適期は、平成16年度主要成果(普及・普及)を参照する。
- 2) 試験結果は水戸市および大洗町で実施したものである。
- 3) イネツトムシ第1世代および第2世代幼虫発生時期(6～7月)の温度条件によっては予測精度が低下する場合がある。
- 4) 第1世代成虫の50%捕獲日は、成虫捕獲ピークとその2半旬程度前までの間に出現する傾向がある。成虫捕獲ピークを迎えた後の捕獲数は急激に減少することが多いので、7月中旬以降、調査間隔を狭めて捕獲ピーク及び終息期の把握に努め、50%捕獲日を推定する。

4. 具体的データ



写真1 昆虫誘引捕獲器の設置状況

表1 イネツトムシ第1世代成虫50%捕獲日と防除適期

調査年	第1世代成虫 50%捕獲日 (A) ^{注1)}	防除適期(B) ^{注2)}	(A)から(B) までの日数
平16	7月11日	7月23日 前後	12日
平17	7月18日	7月28日 ~ 8月3日	10~13日
平18	7月20日	8月2日 前後	13日
平19	7月23日	8月2日 ~ 8月10日	10~18日
平20	7月26日	8月2日 ~ 8月7日	7~12日

注1) 成虫捕獲数は、飼料イネ圃場に設置した昆虫誘引捕獲器により調査した。

注2) 平成16年は所内「クサホナミ」ロングマット苗6月2日移植圃場、平成17年は大洗町神山地区「はまさり」ロングマット苗5月26日移植圃場、平成18年は所内「はまさり」ロングマット苗6月1日移植圃場、平成19年は大洗町神山地区「日本晴」6月11日移植圃場、平成20年は大洗町神山地区「はまさり」6月6日移植圃場のイネツトムシ年齢構成を調査し、若齢～中齢幼虫が大部分を占める時期を示した。

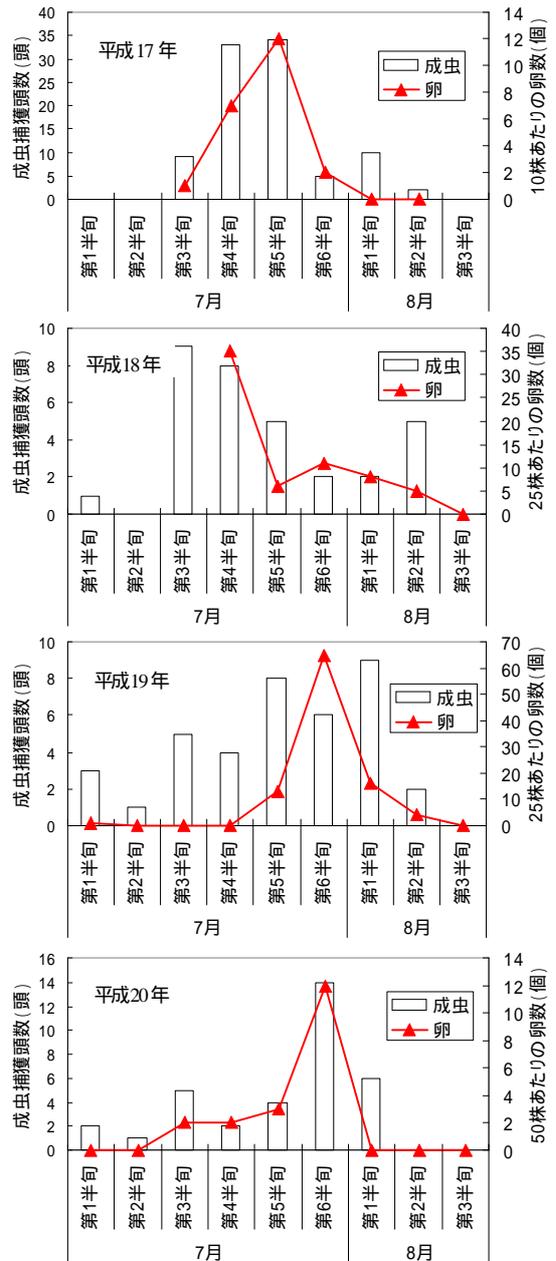


図1 昆虫誘引捕獲器によるイネツトムシ成虫捕獲数と飼料イネ圃場における産卵数の関係

注1) 大洗町飼料イネ栽培現地圃場に、市販の芳香剤「ピュアローズの香り」を誘引剤として添加した昆虫誘引捕獲器を設置した。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

関東地域における飼料イネの資源循環型生産・利用システムの確立、平成16～平成20年度、病虫研究室・経営技術研究室